

No. 7 建設防災 ボランティアニュース

発行人 沼尻 敦
編集人 城之内一成
発行 東京都建設防災ボランティア協会
事務局 (財) 東京都駐車場公社内(Tel: 03-5381-3370)
横田マリ子、金田宗明
(財) 東京都公園協会内(Tel: 042-548-9161)
荒木 清

平成14年度、当協会の主な活動記録

- 6月17日 平成14年度定期総会(第6回)開催
会場: 日比谷市民カレッジ 出席者: 112名
○ 規約改正(監事2名に増員)
○ 携帯品の整備、拡充(防災服の1部補助)
- 7月11日 役員会開催(役員の業務分担打ち合わせ)
役員終了後、各リーダーに委嘱状交付
一同上 第4号建設防災ボランティアニュース発行
- 7月 「河川愛護月間行事」に参加
○ 河川部主催の「川のパネル展」、「川の情報室」
○ 各建設事務所主催「川を歩こう会」等の案内役
- 8月8・10日 「道の日行事」に参加
○ 道路功労者と標語入選者の表彰式の会場整理
○ 新宿西口広場でのパネル展示等の案内役
- 9月01日 第5号建設防災ボランティアニュース発行
○ 「河川愛護月間」、「道の日」特集号
- 9月01日 「東京都・練馬区合同総合防災訓練」に参加
○ 練馬区光が丘(四建管内)にて、4建班9名が総合防災訓練に参加。(指揮官: 林四建所長)
○ 道路管理部、土研主催のレスキューナビゲーション・システム送受信訓練に2名参加
- 9月26日 砂防講習会開催
○ 都庁第一庁舎において、河川部防災課長及び砂防関係係長3名により実施。参加者80名。
- 10月12・20日 秋のバラフェスタ(神代植物公園)に参加
○ 西部公園、多摩動班10名が会場整理に参加
- 11月22日 施設見学会開催
○ 第三建設事務所のご厚誼により、神田川・環状七号線地下調整池の見学会実施。参加者: 28名
- 12月06日 普通救命講習会開催
○ 新宿消防署のご好意で、新規の受講者(48名)を対象に行なわれた(更新者は11月14日24名)
- 12月03日 役員会開催(NPO化の検討)
- 12月10日 第6号建設防災ボランティアニュース発行
- 12月18日 防災訓練及び震災対策マニュアル改定の説明会
○ 講師: 総務部企画調整課小菅係長 参加者: 85名
- 1月15日 平成14年度建設局初動対応訓練に参加
- 2月14日 元東京都技監佐藤一夫講師による防災講習会
- 3月12日 道建街路課長土屋信行講師による防災講習会

平成14年度防災講習会開催

(行事担当役員 雑賀 徹)

平成14年度防災講習会は例年と異なり今年度は2回行いました。

第1回は会場の都合で参加人数を制限しましたが、両講習とも席が足りぬほどの盛況で大変好評でした。講師のお二方には紙面をかり、改めて御礼申し上げます。



講演する佐藤元都技監

実施状況

第1回

日時: 平成15年2月14日(金) 13時30分から
会場: ペアール新宿セミナールーム
題名: 首都圏計画地図
講師: 日大講師(元都技監) 佐藤一夫氏
参加者: 66名



講演中の土屋街路課長

第2回

日時: 平成15年3月12日(金) 13時30分から
会場: 「緑と水」の市民カレッジ教室
題名: 映像で見る東京の都市計画
講師: 東京都建設局道路建設部街路課長 土屋信行氏
参加者: 92名

平成14年度建設局初動対応訓練に関するアンケート調査結果

(建設局総務部企画調整課次席 壁矢千鶴子)

1 組織について

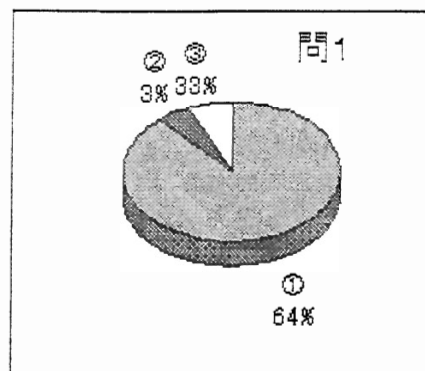
問1 本部組織の構成について、どのようにお考えですか？

項 目	回答数
① 適当である	53
② 以前の組織の方がよかった	3
③ その他	4

【主な意見】

災害対策が長期間にわたることが予想される。2～3交代の態勢も必要になるのではないかと。

まとめ、連絡体制等適切である。



問2 各班の役割分担について、どのようにお考えですか？

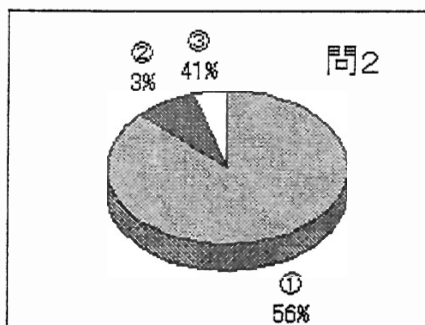
項 目	回答数
① 適当である	54
② 以前の方がよかった	5
③ その他	3

【主な意見】

有効と思うが、少し訓練が必要では。

基本的には変わっていない。

以前よりは充実してきた。



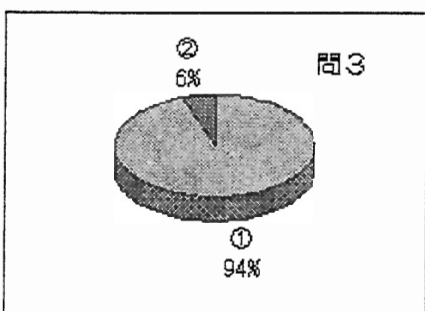
2 訓練の進行について

問3 職員に対する指揮命令などは、的確に行われましたか？

項 目	回答数
① 的確に行われた	17
② 的確に行われなかった	1

【主な意見】

発災箇所をボードで明示し、参加者の認識が高まった。



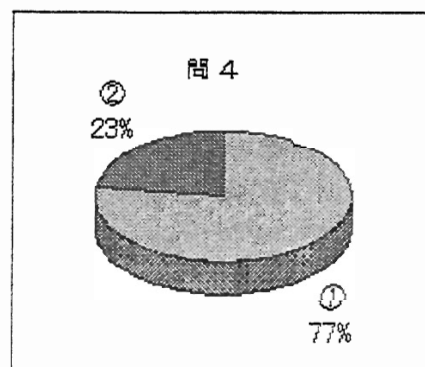
問4 他の班との連絡は円滑に行われましたか？

項 目	回答数
① 円滑に行われた	17
② 円滑に行われなかった	5

【主な意見】

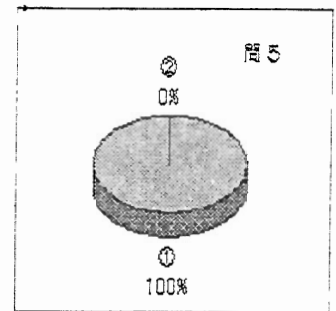
無線が混線することがあった。

筋書きに従っては可能だが、実践ではむずかしいものである。



問5 情報連絡は円滑に行われましたか？

項	目	回答数
①	円滑に行われた	10
②	円滑に行われなかった	0

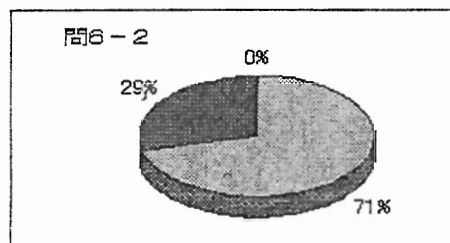
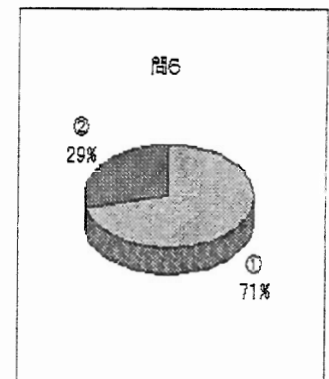


問6 情報機器の操作は円滑に行われましたか？

項	目	回答数
①	円滑に行われた	10
②	円滑に行われなかった	4

※問6-2 問6で②とした情報機器は？

項	目	回答数
①	無線電話	5
②	NTT 電話	2
③	無線 FAX	0
④	NTTFAX	0
⑤	レスナビシステム	0



【主な意見】

無線が混線した。

携帯無線電話は大容量のバッテリーがほしい。

連絡シートの書式不備による宛先の不明確。

問7 点検出動は円滑に行われましたか？

項	目	回答数
①	円滑に行われた	46
②	円滑に行われなかった	4

【主な意見】

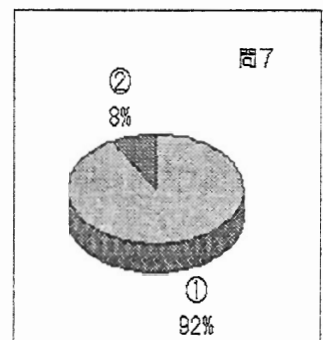
点検出動は円滑に出来たが、点検指示が遅れた。

事前に点検場所を想定していたので比較的スムーズに出動できた。

訓練のため、指定時間に参集し、指示通りに災害現場へ点検調査に出動したが、実際、発生時には点検班が4班では少ない。

陸上移動無線局を使用した、不慣れと回線の不足から十分な対応ができなかった。

予定演習時間内で完了させることに重点が置かれ、本来の点検上の留意点や目的の確認方法が不明確な印象が残った。

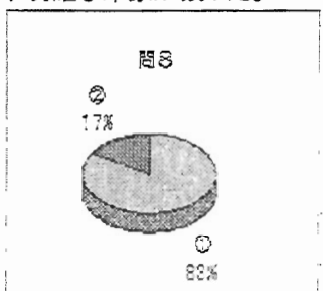


問8 協定業者との連絡は円滑に行われましたか？

項	目	回答数
①	円滑に行われた	15
②	円滑に行われなかった	3

【主な意見】

情報連絡が円滑に行われなかった。被災状況が同時刻に重なったため。



問9 訓練を通じて実際の災害対応に対する自信を得ることができましたか？

項 目		回答数
①	得られた	30
②	得られなかった	27

【主な意見】

もし災害が起きた場合、自分たちのやるべき仕事について意識を新たにすることができた。現職の職員の方々の指示に基づいて行動したので自信とはいいいくいが、今後ともそういう方向で努めたい。

事務所の勝手や新しい人たちとの面識を得るなど、少しはやれるかなと思った。何もしないよりずっといい。

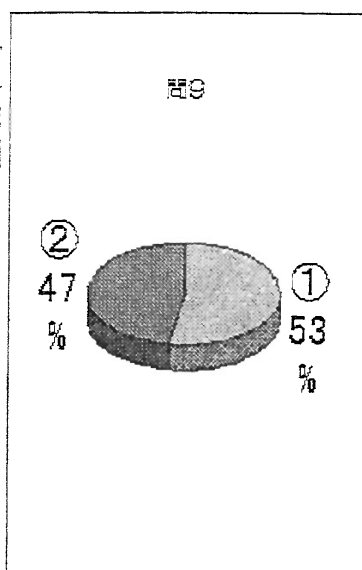
ボランティアは点検班の補助員として過去の経験を生かして災害現場の状況を調査点検するもので、毎年訓練しているため十分に支援活動が出来たとの自信あり。

円滑に対応するため、繰り返し訓練の必要性を強く感じた。

現実の災害はこんな「なまやさしい」ものではないと思う。電気、ガス、水道等が使えない場合は「悲惨」だろう。

担当、ボランティアの分担をもっと明確にした方が良い。遠慮がちの感がある。

今回は勤務時間内での訓練であったため、初めてのケースで手際が悪かった。作戦班としての訓練の進め方に混乱があった。



3 その他(震災対策の手引きについて)

問10(1) 参集場所を変更したことについて、どのようにお考えですか？

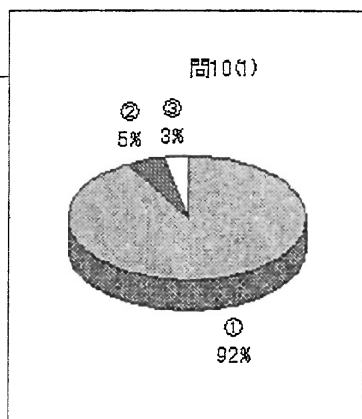
項 目		回答数
①	適当である	56
②	以前の方がよかった	3
③	その他	2

【主な意見】

管理職は全員勤務先職場集合となったが、非常時の場合、管理職空白事務所が出る恐れはないか。

一番近い場所として、遠くでは意味がないと思う。

時間外の災害発生を予定するなら、住所地を中心とした体制を築くのが当然と思う。



問10(2) 班編制を変更したことについて、どのようにお考えですか？

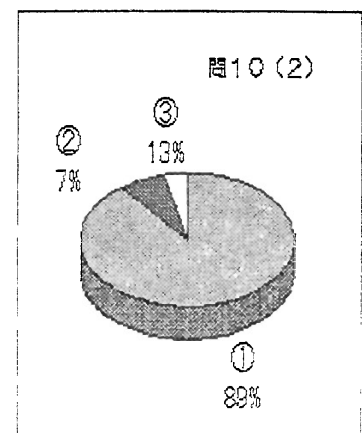
項 目		回答数
①	適当である	51
②	以前の方がよかった	4
③	その他	2

【主な意見】

職員とOBが一緒に班になったことは良い。

ボランティア協会会員の位置づけが明確になったので良い。

今回だけでは判断できない。



**問10(3) 事務所災害対策本部(立ち上げる事務所と立ち上げない事務所)を変更したことについて、
どのようにお考えですか？**

	項 目	回答数
①	適当である	40
②	以前の方がよかった	10
③	その他	2

【主な意見】

訓練に対する認識を深める効果を期待して全事務所参加した方が良い。

趣旨がよく理解できない。

問10(4) 全体を通して以前に比べて良くなったと思われるところ

【主な意見】

班の役割分担が以前より明確になった。

情報の連絡が迅速となった。但し、コピーが使えない場合も想定する必要あり。

以前より大分きめ細かになり、勤務時間内の明記・参集場所の細分化・作戦会議の創設など内容も充実してきた。

今回は事務所内での想定現場出動であったため、情報伝達が比較的良好であった。

去年はボランティアに対策まで決めさせていたが、今年は職員が全面に出て、ボランティアは応援にとどまっていた。

問10(5) 全体を通して以前に比べて悪くなったと思われるところ

【主な意見】

情報に対する取組が複雑になった。

ややくだい。

本部との連絡に多少時間がかかるように見受けられた。

過去数回の訓練に関係のなかった職員が初めて関与したことでその処理に戸惑っていたのが見られた。

問11 その他、訓練・手引き全体を通じての自由意見をお聞かせください

【訓練】

文書による情報確認を更に徹底すべき。行政無線が実践時に役立つか不安。音声だけでなく、携帯電話映像添付(パソコンとデジカメも)など更なる工夫が必要。

要は実際にやってみて分担や手順が分かりやすく、連携・運用が円滑にいくかどうかだと思う。そのためには訓練、講習会、情報連絡会などを時々行う必要がある。

勤務中の発災訓練であり混乱はやむを得ない。無線機の取り扱いに不慣れがあり、訓練の要がある。

今回の訓練は本部に配属された職員の多くは初めての経験であったが、情報の輻輳や処理に時間を要するなど若干の混乱があった。今後は想定する災害に変化を持たせ訓練回数を増やす必要がある。また、ボランティア会員は何回か訓練に参加している会員も多く、その活用も視野に入れ検討されたい。

総指揮官は腕章をつけ、指示は声を発して行くと良い。

年数回の訓練が必要。

防災ボランティアを有効に使うよう検討すべき。例えば訓練の計画から参画させた方がよい。

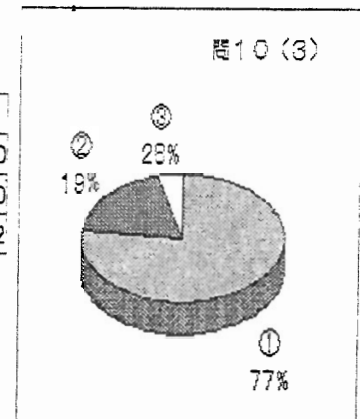
住所地を中心として当該地域に土地勘のある者が、地形・地物・各種公共・公益施設との関係の中で活動することが基本である。現実に参加しえない職員を集めて訓練成果を挙げても意味がないし、不足する人員下で何ができるかを知るのも大切だと思う。

【手引き】

状況に応じた判断訓練も必要だが、いろいろなケースを想定した対応マニュアルを作成することも必要。

手引きの内容が詳しくなった。実際の動きが細かく説明されている。しかし、実際はそのようになるかどうか。いろいろなアクシデントがあると思う。

文書伝達手段や方法を省力化する方法を検討しないとロスが多く誤報の可能性が生じる。



震災対策マニュアル改定等の説明会開催される

建設局防災訓練に参加して

(四建班 三原徹次郎)



説明する小菅係長

記

平成15年1月建設局防災(初動対応)訓練が、昨年までとは異なった内容で実施されるのに先立って、また、震災対策用の小冊子(なまずの本)が全面改訂されたことに伴う説明会が建設局の協力により下記のとおり開催されました。

- 1 日 時: 平成15年12月18日14時開始
- 2 場 所: 日比谷公園内 緑と水の市民カレッジ
- 3 講 師: 建設局総務部企画調整課 小菅調査担当係長
- 4 出席者: 85名

平成14年度建設局初動対応訓練に参加して

(二建班 市村 寛)

さる1月15日(水)午前9時30分に東京都と神奈川県境を震源とする大規模地震(マグニチュード7.2、震度6程度)が発生したとの想定で初動対応訓練が実施されました。その際二建に参集した建設防災ボランティア協会員は新しいユニホームの8名(石川、平原、加藤、小林、野村、林、山口、市村)でした。

当日の協会の役割分担については、全員が応急対策班の点検係に配属されました。点検係は6班に分かれて、一班3名編成(職員2名、防災ボランティア1名)で各現場の点検に徒歩で出動した。現場に到着すると事前に被害内容を想定していたので、被害状況を早速無線で本部の情報班の通信係に連絡しました。

その後、通信係は応急処理係と打ち合わせて、現場に指示があるまでかなり時間がかかりました。(各班よりの被害状況が混線しているようで、本部内で情報整理に時間がかかる)そのうちに無線の電池容量がなくなり、携帯電話に切り替えて連絡をとりました。

本部内の作戦班、情報班の活動状況はわかりませんでした。点検班は各班共現場を確認して元気で戻ってきました。

実際、地震被害が発生した場合まず人命救助を優先し、点検班は被害箇所の優先順位を決め現場に急行する。

途中の道路は、建物崩壊や火災による障害物等が散乱し、殆ど閉鎖状態で通行止めとなり、徒歩で目的の現場に着くまでかなり時間がかかると想定されるので、先ず、委託業者による啓開作業を緊急出動要請するべきであると思います。

初動対応訓練終了後、参加者全員が会議室に集まり所長より講評があり散会しました。その後、二建の管理職と協会員は別室で昼食をとりながら、訓練の反省等なごやかな懇親がありました。



四建作戦本部風景

輻輳するマグマ層の上に位置するわが国では地震はいつ起こっても不思議ではない、というわけで都の防災訓練は毎年行なわれている。今年は勤務時間内の訓練として初めて開催され、我々ボランティア会員は2割動員のもと3名(中島、丸山、三原)が第四建設事務所の訓練に参加した。また我が四建班では、吉田副会長・加山リーダーの発案で、防災訓練班とは別途に自主的な訓練参加を事務所へ提案し、それが承認されて同日、都道の管理訓練も併せて実施している。

今回の防災訓練は、作戦班・情報班・応急対策班に分かれ、建設局全体で行なわれたが、我々3名は応急対策班に配置された。

当日の訓練を端的に報告すれば、それはよく管理された良い訓練だったといえる。所全体として実によく統一され、訓練の指示や対応の状況等も誰の目からも一目瞭然とわかるように管理され、より実践的な訓練となっていた。被害想定も7題が出題され、うち2題は本庁出題、5題が事務所による被害想定だったが、それも十分に吟味され実践的な内容となっていた。何よりも職員が真摯に訓練に取り組んでいたのが良かった。例えば被害箇所へ自転車で出動していた職員が、終了時間になってもなかなか帰って来ず、終了時間を引き延ばして皆で待っていると、汗まみれで息せき切って帰ってきた時には皆が思わず拍手で迎えたことでも訓練の真摯さが分かるように思う。我々も訓練日の前日に所で開かれた事前説明会に参加し、訓練の趣旨や班編成の状況等の説明を受けた。そのために全体の組織構成や流れが事前に分かり訓練活動がスムーズにできたように思う。さて、今回四建で採用した「活動状況把握のための管理一覧表」は秀逸で、事務所周辺居住者による今後の訓練にも是非採用し、用意されるべき資料であると思われた。

原 稿 募 集

会員皆様からの原稿を歓迎します。

連絡先: 建設防災ボランティア協会事務局

東京都駐車場公社内(横田、金田)

電話 03-5381-3370

東京都公園協会内(荒木)

電話 042-548-9161

平成14年度 初動対応訓練に参加して

(西建班一岸 忠夫)



真剣な表情で待機する西建職員

1月15日午前9時30分に、東京都・神奈川県境を震源とするマグニチュード7.2、震度6弱の大規模地震が発生し、広域的な被害が発生しているとの想定に基づく初動対応訓練が実施された。第5非常配備態勢とのことで西建では所長以下職員57名が態勢を取り、建設ボランティア会員6名がこの訓練に参加した。

ボランティアの会員は10時集合の通知を受け、事務所に到達すると、今回は勤務時間内に地震が発生したとの想定であったため、職員は全員すでに態勢についており被害状況の情報把握等に入っていた。

今年は、いわゆる「なまず」本といわれている震災対策の手引きが改訂になり、今までの「総括指揮班」が「作戦班」、「情報連絡班」が「情報班」、「点検班」が「応急対策班」に名称変更され、それぞれの班に係りを設置し、より明確な作業分担態勢となった。

我々ボランティア会員は情報班の総括係りに2名、応急対策班の点検係りに4名配置され、職員の活動を支援した。

今回の訓練では、6箇所の被害個所の点検と2箇所の自主点検を実施し、午前11時30分に終了した。

終了後、横田所長から

- ・ 基本的な情報伝達は出来た。
- ・ 個別の連絡（用紙の書き方、整理の方法）にまだ工夫の余地がある。
- ・ 西建では実際の災害時には、国道411号線と橋梁部分の交通確保が特に重要。

との講評があった。

その後、所長室で所長とボランティア会員と懇談を行い「NTT回線が不通になった時、陸上移動局無線を利用することとなるがチャンネルが二つしかなく、一つの周波数を数事務所が競合使用するため、混乱するだろう」などの話題がでた。

「ユキヒョウ逃げた！」・猛獣脱出対策対応訓練に参加

(多摩動物公園担当 小森 和雄)

「ユキヒョウ」が本当に逃げ出したら、臨時ニュースが流れ、多摩動物公園には、中継車が殺到すると共に、上空には、警察・消防・取材のヘリと、大騒ぎになることでしょう。3月10日(月)「ユキヒョウ(新人・櫻井佑子さん・着ぐるみ)」が逃げたとの想定のもと、猛獣脱出対策訓練が行われました。この様子は、テレビで放映されたり、翌日の新聞(多摩版)に掲載されたので、ご覧になった方も多いと思います。



(写真)

麻酔がきいて
よろける
ユキヒョウ

(名演技)

この訓練に、根本・小森の両名が参加しました。対策本部として通信連絡・工作・捕獲・警備誘導の4隊を設置。我々は、警備誘導隊に編入され、動物園協会案内係の職員やガードマンと共に、来園者の避難誘導の任にあたりました。又、警察・消防(負傷者救急)の協力もありました。

動物園で施設が崩壊し猛獣が脱出したということは、関東や阪神淡路の大震災でもありませんが、念には念を入れて、又、無線機等の習熟訓練をも兼ねて実施しているそうです。

今回の訓練の様子を、断片的ではありましたが、デジカメで撮影(全81枚)し、活動報告として、抜粋した写真帳と、全画像のCD-Rを作成し、多摩動物公園と動物園協会へ届けました。この訓練は、多摩動物公園と上野動物園とで、一年おきに行っている関係から、前回どのように実施したか記憶が薄れがちになる。園として記録をとっているが完全ではないので、別の角度からの記録として次回の訓練の参考になり、ありがたいと喜んで頂きました。

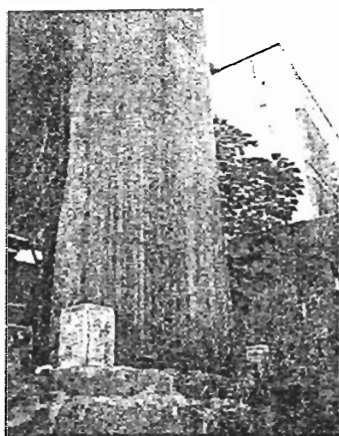
この訓練には「ニフティ」「ドイツテレビ」といった珍しいメディアも取材にきていました。「ニフティ」のホームページへの掲載により、この訓練は世界の人達に知れ渡ったのでは、と思っています。

○吾が身を自ら守った水天宮

丸山勝彦

「建設防災ボランティアニュース」の貴重な紙面をお借りして、昔の失敗談をご披露させていただきます。

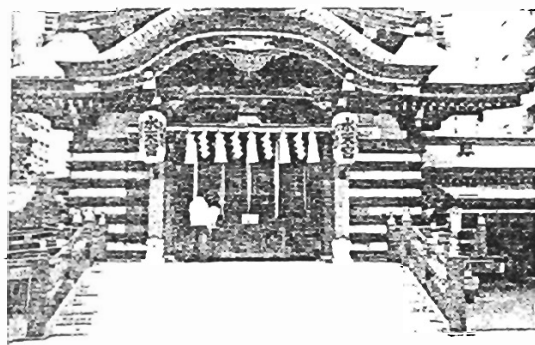
私が隅田川に架かる新大橋の架け替え工事の工区長をしていたときの話です。本橋は明治45年に完成し、関東大震災や戦災を免れた鋼トラス橋を斜張橋に架け替える工事でした。さて、右岸の橋のたもと（浜町2-57地先）に、震災で助かった人たちが刻んだ水天宮の石碑が建っている。本橋から近く火難、水難、安産の神として有名である。



隅田川右岸上流に建つ水天宮の石碑

前書きが長くなりましたが、新大橋の桁架設も完了し上部仕上げ、取付け道路の舗装にとりかかったときのことである。石碑の横に乳剤のドラム缶を置き、薪で乳剤を加熱中にかきまわす作業員が一時現場を離れたため、乳剤が突沸し火がついた。大黒煙がたちこめ夜間とはいえ付近は闇の闇となった。乳剤は沸騰をくりかえし、石碑に約3mの高さまで高温の乳剤がかかってしまった。約7分後に消火器が到着しなんなく消しとめた。早くもかなりの野次馬が集まってきて、現場は混乱状態となった。丁度現場から約200mに日本橋消防署があり、すぐさま自転車で状況説明に飛んだ。署にはすでに119番がはいり消防車はエンジンを駆けまきに出動する直前であった。

ああだ、こうだ説明をするも「役目から出動する」で聞いてもらえない。そこで消火したのだからサイレンだけは鳴らさないで出動願えないかと強く要請したところ、了解してもらった。現地調査、実況見聞が終了したのはすでに朝方であった。すぐさま石碑を単管足場とシートで覆い、シンナーで乳剤のふき取りにかかった。なにしろ高さ5mの仙台石の石碑であり復旧に7日かかった。シートを取り外して驚いたのは、まさに火難除けの神様だけあって、石碑の字を彫っている表面、裏面には乳剤がかからないで、側面だけにかかったようである。熱による石碑のかけらがセメント袋で5袋にもなった。



安産の神様として有名な水天宮

なお、事故当日朝一番に〇〇建設は社務所に飛んで、金老万円をお賽銭箱に投入した。この話を後日耳にした五建橋梁建設課の面々は「あのケチな会社がなー」としきりに感心したものである。

（この話は五建橋梁建設課の回想誌から転載しました）

ボランティア協会入会申込書受付者

（15年4月7日現在）

氏 名	住 所	最終職場	参集希望職場
中田 機文	流山市	二区	
今成 三郎	国立市	西建	北北・西建・北南
小林健三郎	我孫子市	治水	六・四・二建
堀内 康彦	相模原市	南西	南東・南西
湯本 勝	千葉市	多摩動物	多摩動物
佐藤 貞一	町田市	南西	南東
別府 栄	多摩市	公園	西公
中山 功	昭島市	北北	北北
蜜本 圭一	和光市	四建	四・東公
草野 郁	世田谷区	土研	

新会員の皆様よろしく願いいたします！

編 集 後 記

- ☆ 新芽の眩しい季節がやってまいりましたが、協会の皆様はいかがお過ごしですか？
- ☆ 最近、協会の仲間が、相次いで急死いたしました。皆さん、生活習慣病には、気をつけましょう。特に、肥満は高齢者にとっては、大敵だそうです。
- ☆ 先日、実施されました建設局初動対応訓練参加者のアンケート調査の集計を総務部企画調整課の壁矢次席をお願いいたしました。どうも有難うございました。
- ☆ 当機関紙は、どうも内容が硬すぎるからと、丸山氏が軟らかい文を寄稿してくださいました。皆様、やわらかい原稿もお待ちしております。（城之内）。